

# マンションでのバリアフリー対応に関するアンケート調査報告書

## B 調査：心のバリアフリーについて

2022年10月28日

マンションコミュニティ研究会

### B 調査報告

A 調査では、マンションのバリアフリー対策の現状（ハード面とソフト面）について、それらが管理組合でどのくらい行われているのか、課題は何なのか等を調査してまとめ、さらには各マンション管理組合でこれからのバリアフリー対策を検討していくうえでの参考情報を提供出来たらと考え、アンケートを実施した（結果は別原稿）。

B 調査では、高齢化が問題となる昨今、直接の管理組合の業務から少し離れて、高齢化に対する「心のバリアフリー」対応の現状と将来のあり方について調査を試みた。「心のバリアフリー」とは、「高齢者や障害者が社会生活を送る上での障害を取り除くこと」。そのために「様々な心身状態の特徴や考え方を持つすべての人々が、相互理解を深めるコミュニケーションをとり、支え合うこと」と言われる。マンションも今後90歳を超える一人暮らしが急速に増えると思われる。在宅ケア、在宅見取りが進められている中、マンション内でもっと支え合うことができないかという考え方があると同時に、管理組合運営だけで手いっぱい難しいとの考え方もある。どんな最後を迎えたいのかを考えるきっかけになるアンケート調査を試みた。

### 調査の概要

対 象： 全国のマンション管理組合役員及びマンション居住者

方 法： Webアンケート

実施期間： 2022年9月5日(月)～9月15日(木)

回 答 数： 199名

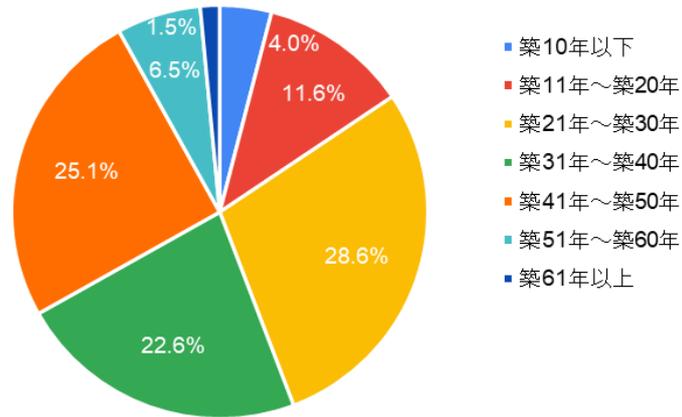
### 調査結果

#### <基礎データ>

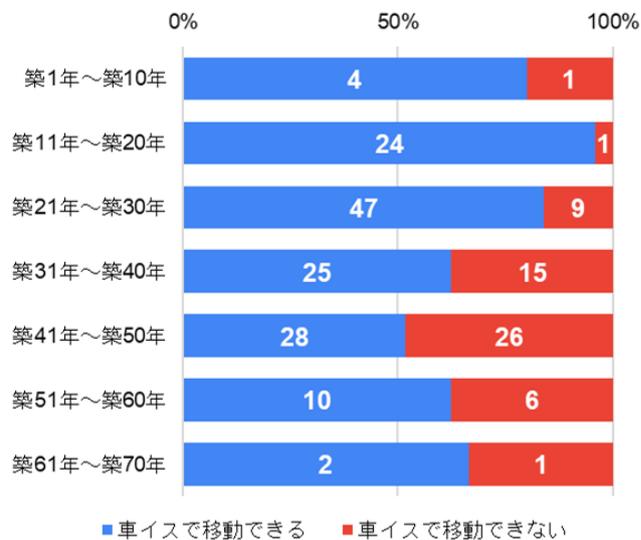
#### 1. マンションの築年 (n=199)

\*築年数(10年ごと)による集計

築年	件数	割合
2013年～2022年竣工（築10年以内）	8	4.0%
2003年～2012年竣工（築11年～築20年）	23	11.6%
1993年～2002年竣工（築21年～築30年）	57	28.6%
1983年～1992年竣工（築31年～築40年）	45	22.6%
1973年～1982年竣工（築41年～築50年）	50	25.1%
1963年～1972年竣工（築51年～築60年）	13	6.5%
1962年以前（築61年以上）	3	1.5%
合計	199	100%

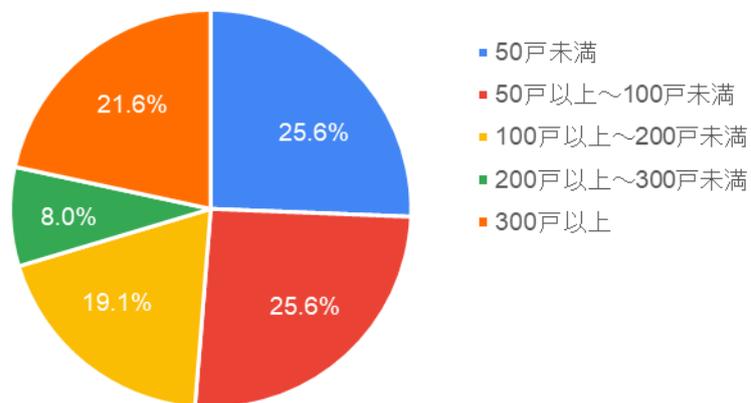


●築年数別の「車イスで移動できる」「車イスで移動できない」を見ると次の通りである。

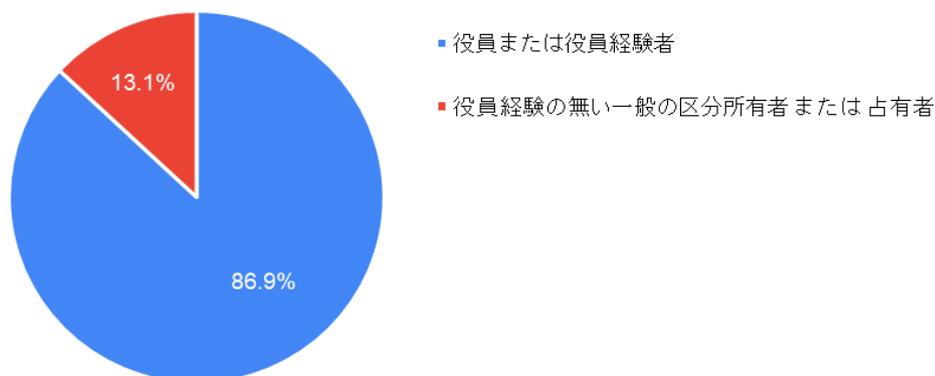


\*築31年以上で、「車イスで移動できない」が多い。

## 2. マンションの規模（戸数）（n=199）



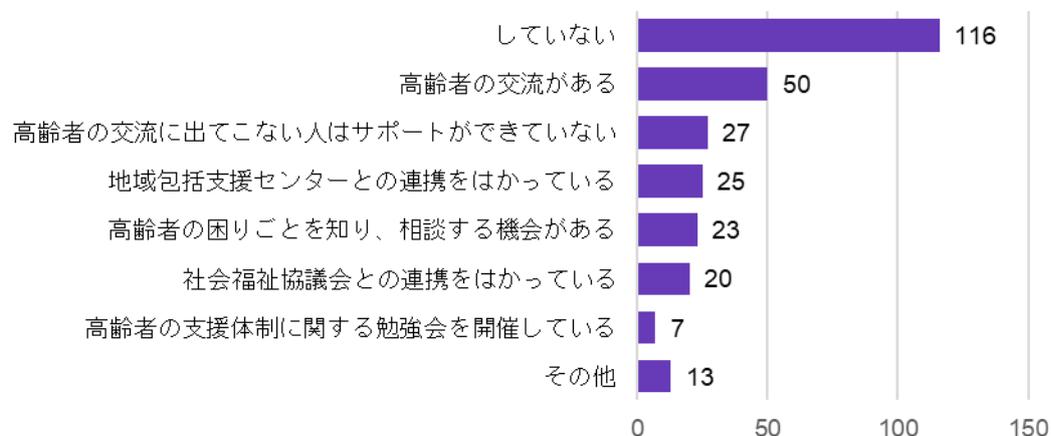
### 3. 回答者と管理組合との関係 (n=199)



## <B 調査結果>

### VI マンションでの高齢者の心のバリアフリー対応

マンションには、様々な心身の状態の高齢者がいます。心のバリアフリー対応として「様々な心身の状態や考え方を持つすべての人々が、相互理解を深めるコミュニケーションをとり、支え合うこと」に関して何かしていますか。(複数回答可)



#### (その他の回答)

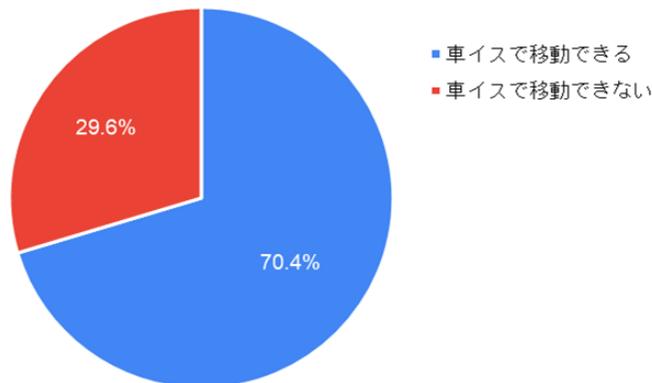
- ・マンション単独で構成している自治会で、様々な行事や支援活動を行っています。一部、管理委託会社にも応援いただいています。
- ・援護者/要援護者の名簿を作成し、共助体制を構築。
- ・個人的に声を掛け合ったり、話し相手になるようにしている。
- ・高齢者や身体障がい者の方や一人暮らしの高齢者の方など、ごみ出しや買い物、通院などで困っておられる方が多くなり、見守り活動に力を入れるようにしています。
- ・自治会とともに検討中。
- ・集会室を利用した茶話会などを行ったり、居住者同士が集まる機会を設けるきっかけづくりなどのイ

ベント活動を企画中です。

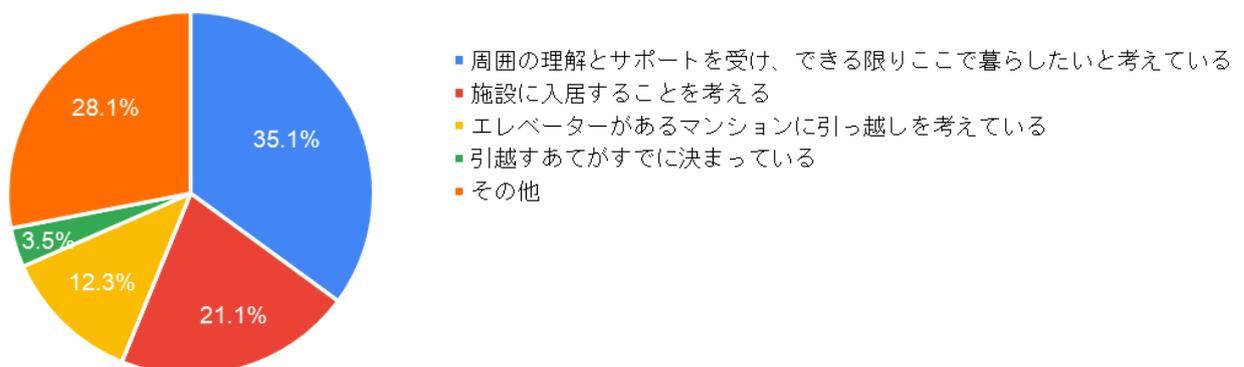
- ・集会所を何時でも使える様にして、コミュニティ醸成を図っている。
- ・住み込みの管理人が相談を受け対応している。
- ・町会一斉加入、所轄署との連携等をしている。
- ・町内会の老人会と一部連携しており、マンション共用施設（ゲストルーム）にて不定期な懇親会を開催している。
- ・特に高齢者対応ではないが、定期的に行事（バス旅行・美術館見学等）を実施している。
- ・防災名簿を提出されている方には、訪問し、災害時の対処について確認をしている。

## VII 車イスが必要（又はその状態）になったときの対応

- お住いのマンションは、マンションの入り口から専有部まで、車イスで移動できますか。  
(n = 199)



1. 「車イスで移動できない」と答えた方に伺います。バリアフリーでないことでご自身又は同居家族の生活に支障が出た場合についてどう考えていますか。(n = 57)



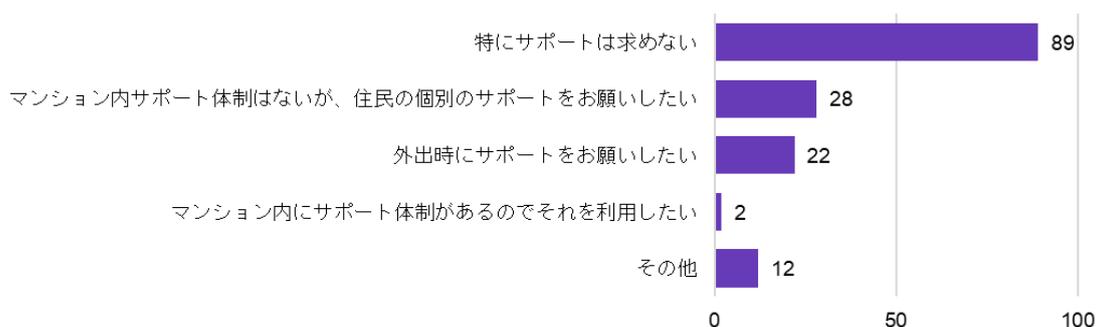
\* 「ここで暮らしたい」が 35.1%、別の住まい（施設、他のマンション等）を考えている人が 36.9% である。

### (その他の回答)

- ・EVはあるのですが、共用廊下が3階、7階にしかない。その階であれば車いす可能。
- ・まだ先のこととは思いますが不安です。
- ・まったく考えていない。
- ・マンションは廊下が狭く、トイレ、浴室も車いす用に造られていない。考えたことがない。
- ・以前のように一軒家に住みたい。
- ・移動できるように働き掛けていく。
- ・改修工事を大規模修繕時に実施できないか提言する。
- ・管理組合にバリアフリー改善を要望する。
- ・具体的には検討していない。
- ・高齢の母については、隣の自治体に住む弟宅に転居することに決定している。
- ・今後マンションのバリアフリー化を考えて行きたい。
- ・上階は段差が無い。1、2階が段差で車椅子の移動が困難。ここは改善したい。
- ・他人に迷惑を掛けたくない。
- ・知恵を絞って一人ででも車椅子で移動できるような手段を考えます。
- ・特に考えていない

\* 「その他」には、現実化が難しいことを考えている又は考えたくない人が多い。

2. 「車イスで移動できる」と答えた方に伺います。ご自身又は同居家族が、車イスで生活することになった場合、マンション住民に望みたいサポートはなんですか。(複数回答可)



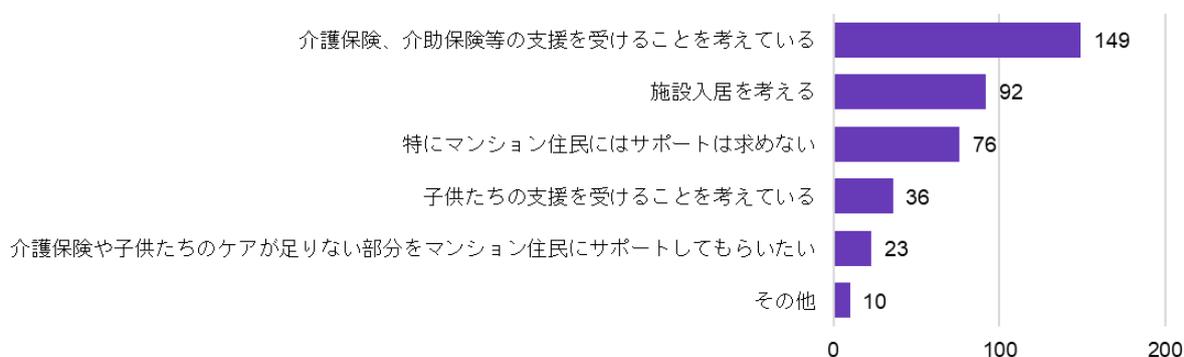
\* 「特にサポートは求めない」が圧倒的に多い。

### (その他の回答)

- ・エントランスドアの開閉やエレベーターの優先利用をお願いする。
- ・お願いしたり求めたりはしなくてもお互いリスペクトを持って接してくれる。段差があって大変な時には手伝ってくれたり、こうしたらうまく段差や操作が楽になるなど、アドバイスをしてくれたこともあります。たいてい道を譲ってくれたり、端によけたりして、走行を優先していただいています。

- ・想像できません。
- ・火災など緊急時にはマンションの住民の方のサポートが必要になると思います。
- ・EX. 車いすが壊れた等、困ったときだけ助けを求める。
- ・車イスで生活している人がいるということを理解してもらいたい。
- ・特に求めないが、居合わせてサポートされるなら感謝です。
- ・独居のケースにおいて、どこまで自分が何をできるかイメージがつかみにくい。
- ・平均年齢が低い為話題に出ない。今後の課題と思います。

3. ご自身及び同居家族の自立生活に支障が出た場合、どのように対処しますか。  
(複数回答可)

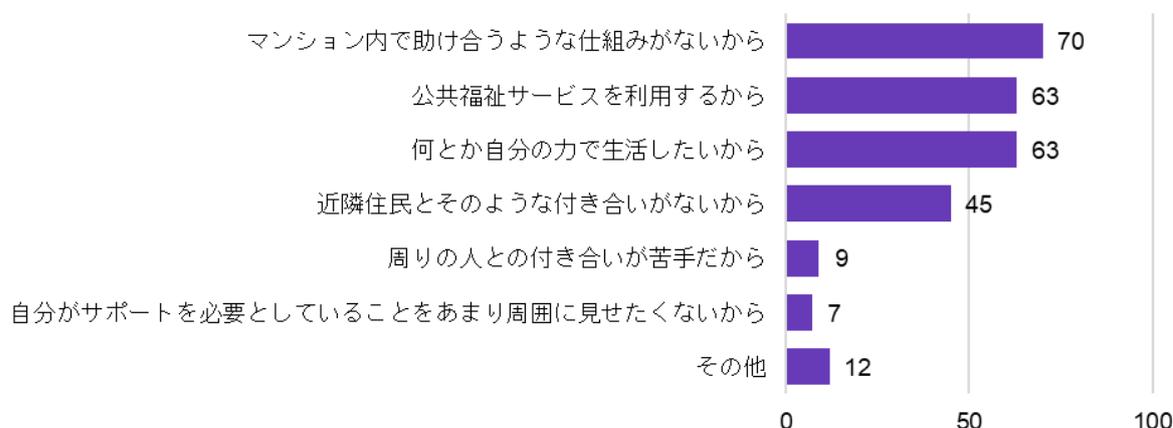


\* 「特にマンション住民にはサポートを求めない」が 76 件、「介護保険や子供たちのケアが足りない部分をマンション住民にサポートしてもらいたい」が 23 件となっている。

(その他の回答)

- ・これから考えます。
- ・マンションに住みながら老健施設などを利用してやりくりしたい。(母のように)
- ・何かあった場合に、助け合えるつながりがマンション内にあればいいと思う。(公平で気を使わないで良い形)
- ・災害時の救援を頼みたい。
- ・死ぬまで、心身ともに自立した生活ができるように日々努力している。
- ・自分自身や家族の負担にならないように、安楽死をしたい。
- ・社会福祉協議会の地域福祉権利擁護事業を活用し、現在の住居において生活する方法を考えていきます。
- ・住いが一階の為特に何も考えていない。
- ・地域の有償ボランティアの生活支援サービスに頼む。
- ・理事会に期待できない。行政の指導に期待する。

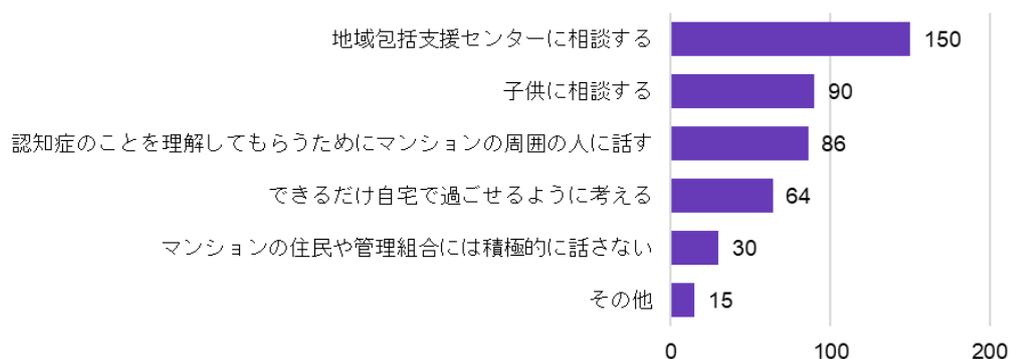
4. 2. で「特にサポート求めない」、3. で「特にマンション住民にはサポートを求めない」を選択した方に伺います。マンション住民のサポートを求めないのはなぜですか。(複数回答可)



**(その他の回答)**

- ・専門の介助者か血縁でなければ、そうそう簡単には頼めない、頼みたくない。
- ・サポート出来る方は高齢化しており。現在サポート出来る人材・体制はなく、将来に向けての準備をする環境にもない。
- ・ヘルパーさんをお願いしたい。
- ・近隣住民といっても他人である。事故とか何かあった場合、親切にしてくれたその人に迷惑はかけたくない。マンション内でもそのようなサポート体制はできないと思う
- ・自分のことで他人に迷惑をかけたくない、互いの思いが通じないと双方が嫌な気持ちになるから。
- ・地域住民同士の生活支援サービスが確立しているから。
- ・低額でも有料のボランティア制度を構築することを個人的には考えている。具体的には、団地共用部分の除草作業などに参加した組合員には、謝礼として一定の基準に基づくポイントを支給し、そのポイントで団地内のサービスを受けられるようにするなど。
- ・分譲マンションでの居住において、他人に迷惑を掛けたくない。要介護を理由にしたくないし、して当然とは思わない。

5. 認知症の症状がご自身又は同居家族にあった場合どうしますか。(複数回答可)

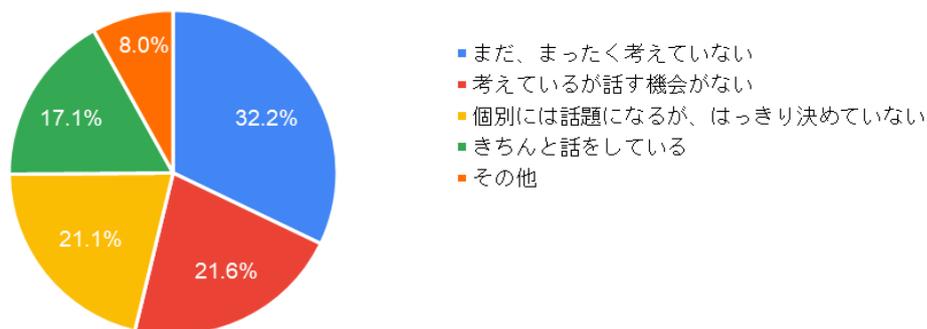


\* 「認知症のことを理解してもらうためにマンションの周囲の人に話す」が 86 件、「マンションの住民や管理組合には積極的に話さない」が 30 件。「周囲に話す人」の方が 3 倍近く多い。

(その他の回答)

- ・ヘルパーさんに毎日来てもらうことで刺激になると思う。
- ・外に散歩に出るなどして周りの方達に接してもらう。飲み会や食事会などを自宅ですて、積極的に交流する。
- ・管理組合役員と管理員さんには、居合わせた際は見守りを願う。
- ・現在 75 歳以上の二人暮らしなので、どちらかが介護が必要になった時は介護の状態にもよりますが施設の入所を検討します。
- ・考えたことはないが、自らが認知症と自覚している人は皆無ではないか。私など相当怪しくなってきたと思う。
- ・施設に入れる。
- ・施設への入居を模索する。
- ・施設へ入所する。家族に負担を掛けたくない。あくまでも集合住宅の他の居住者は他人なので、迷惑を掛けないようにしたい。
- ・施設入居も選択肢として検討する。
- ・私自身が後見人であるので、自身で家族のサポートをする。
- ・重度の進行した場合は施設に入るものと考えている。
- ・専門医に受診し、社協の地権事業利用をする。
- ・地域の常設サロンに行く。
- ・母が雨の日に転けたときには近隣の人がマンションの部屋まで運んでくれた。

6. マンションを将来どうするか子供たちもしくは相続人と話をしたことがありますか。(n=199)

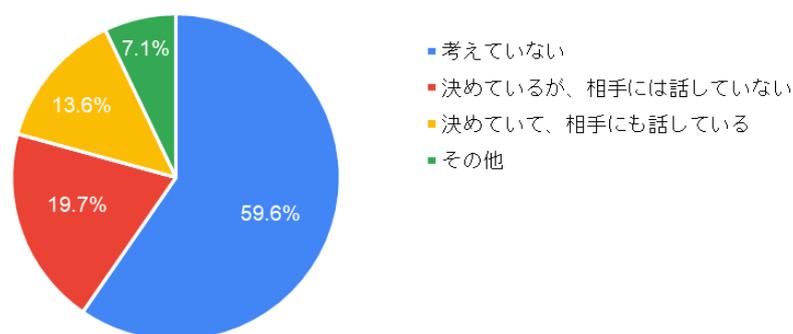


\* 「きちんと話をしている」は 17.1%。マンションの将来は話題にしにくいのが分かる。「まだ考えていない、話す機会がない、はっきり決めていない」で 3/4 を占めている。

### (その他の回答)

- ・子どもがいない。
- ・どうするかまでは話していないが課題は整理している。
- ・マンションを誰が相続するかは決めているので、その相続人がマンションの将来を考えればよい。
- ・リフォームして賃貸にする。
- ・遺言書のような形で記述している
- ・管理をきちんとやらないと叩き売り価格になるぞ、と内心想っている。
- ・子どもがいない。
- ・子どもたちは、全員持ち家であり、相続は子供たちに任せる。
- ・自分を介護してくれた子に譲渡する。
- ・住民の最初からの入居者が 80 代後半、次世代の住民に機会をとらえて呼びかけているが、無関心や忙しさにかまけている人が多い。いずれ息子達に話そうと思っている。
- ・親族はいるが、死後の処分は別に決める予定。
- ・相続の対象者がいません。
- ・売却するように言っている。
- ・本来相続人となるべき子供が重度の障がい者で、相続が事実上不可能なため、市役所や社協などにいづれ相談する。
- ・子どもは、儲けにならない事に関心を示さない。
- ・話をする相手（子供や相続人）がいない。

7. 自分が一人暮らしになって、認知症になった場合、マンションは誰に管理してもらおうか決めていますか。(n=198)



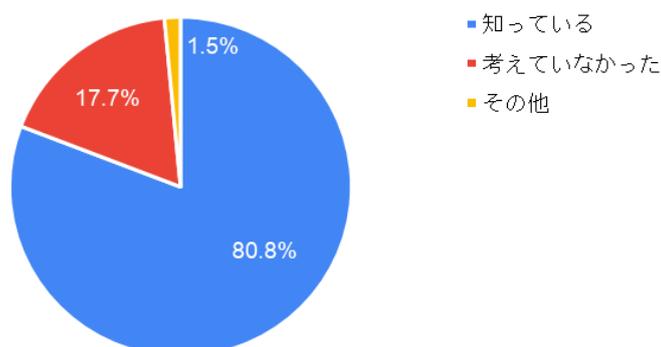
\* 「決めていて、相手にも話している」は、13.6%。「考えていない」が59.6%と6割を占め、「決めているが、相手には話していない」が19.7%と2割を占める。これも考えたくない、話題にしにくい難しいテーマであることが分かる。

### (その他の回答)

- ・おそらく子供に管理してもらうことになる。

- ・そのような場合は子供に依頼する。マンション住民、管理組合に頼むなんて他人任せはできない。
- ・マンションは不動産業者に買い取ってもらい認知症になる前に老人施設へ入居する。
- ・遺言書のような形で記述している。
- ・国庫収納の道を選ぶつもりです。
- ・自我を完全に失う前に、なんとかマンションは処分して施設に入りたい。
- ・社協の成年後見センターに一応の考えは伝えている。
- ・成年後見人に任せる。
- ・相続人は息子一人だけなので、管理も息子に依頼する。
- ・兆候時点で売却し賃貸への転居を考えているが、高齢独身者用の賃貸住まいが無い。
- ・同居の子供を考えている。
- ・認知症には絶対にならないようにできる限り努力しているので、大丈夫。
- ・弁護士。
- ・まず子供に相談する。

8. 自分が認知症になったり、不全状態になったら、資産を動かすことができないことを知っていますか。(n=198)

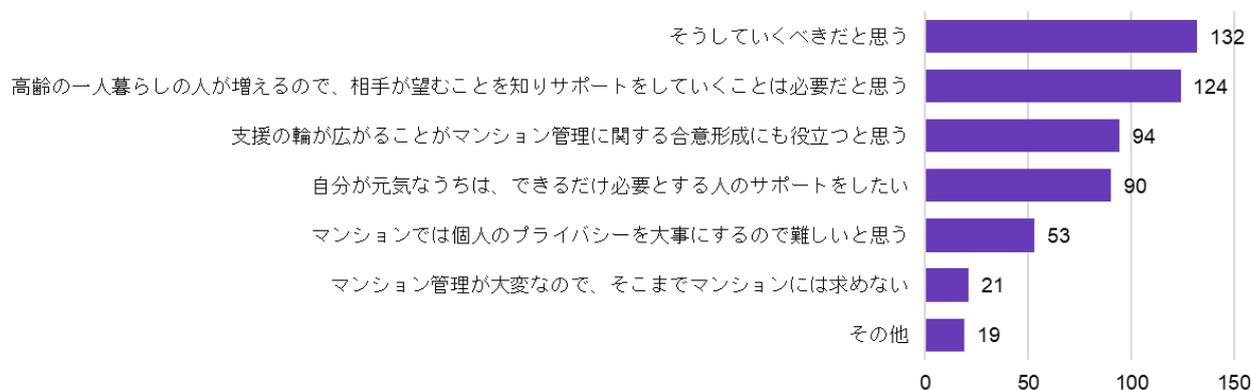


**\*80.8%の人が、認知症になったら自分で自宅マンション等を処分することができないこと等を知っている。**

**(その他の回答)**

- ・資産が動かせないとは、どういう意味かわかりません。
- ・症状いかんにより資産は動かせるのではないか？
- ・知らなかった。当たり前か。

9. マンション内で心のバリアフリーを考え、自然にコミュニケーションができる環境をつくり高齢者の支援を広げて行くことをどう思いますか。(複数回答可)



\* 「そうしていくべきだと思う」132件。「高齢の一人暮らしの人が増えるので、相手が望むことを知りサポートしていくことは必要だと思う」が124件と多かった。「自分が元気なうちは、できるだけ必要とする人のサポートをしたい」も90件あった。

そして、「支援の輪が広がるのがマンション管理に関する合意形成にも役立つ」も94件あった。一方、「マンションでは個人のプライバシーを大事にするので難しいと思う」は53件、「マンション管理が大変なので、そこまではマンションには求めない」は21件と少数だった。

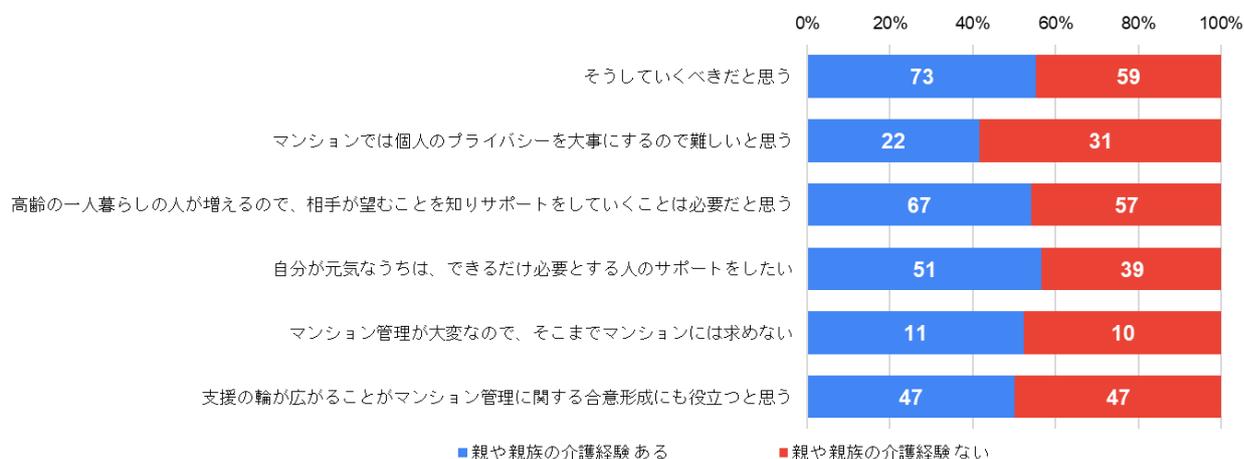
#### (その他の回答)

- ・「マンション内で心のバリアフリーを考え、自然にコミュニケーションができる環境をつくり高齢者の支援を広げていくこと」は可能なのでしょうか。
- ・「近所付き合いが嫌い」という高齢者の扱いに苦慮中。
- ・5階建ての団地でありEVは無い、質問内容は大切と思うが役員1年交代の管理組合では合意形成は難しい。
- ・こんなことができるなら苦勞はしない。
- ・サポートしてほしい方がいて、サポートしたい方がいて、需要と供給があれば良いと思う。一方、サポートして当たり前、なぜサポートしないのか冷たい人だと圧が掛かるのは逆効果かと思う。
- ・そうすべきだと思うが、この件はうまく進まないと考えている。
- ・そのようなことがマンション内で出来たら良いとは思いますが、マンションの環境で出来るマンション、出来ないマンションと分けられると思います。団地型や公団型のマンションでは、お互いに助け合う文化がありますが、都心型のマンションや小規模なマンションでは助け合いの文化が育たず、難しいのではと思います。
- ・介護状態なので、近所の方のご厚意には応じてとても感謝しています。
- ・管理組合ではなく、マンション自治会で対応すべき。
- ・共用部分の管理の範囲を超えて居住者の生活支援に関わる範囲まで管理組合がかかわるのは難しい

面がある。私は自治会との協同が必要と考えている。

- ・行政は理事会運営のノウハウを高める努力をすべき。
- ・私自身、緑内障、難病であります。まだ動けますが。
- ・事前に、善意から義務となってしまうことの無い配慮や対応をどうするのか検討が必要。
- ・自治体と管理組合を含めた選択可能なサポート体制のメニュー整備が必要で、直接的サポートについての議論は難しいのでは。
- ・但し、小規模マンションでは難しいと思う。
- ・幅広い世代の住民が入れ替わり入ることで高齢者中心に住まうマンションにならないようにしたい。
- ・民生委員がいるが、たぶんそれが障害になる。

●この問いを、「親や親族の介護経験がある人」と、「親や親族の介護経験がない人」に分けて見ると、次のようになる。



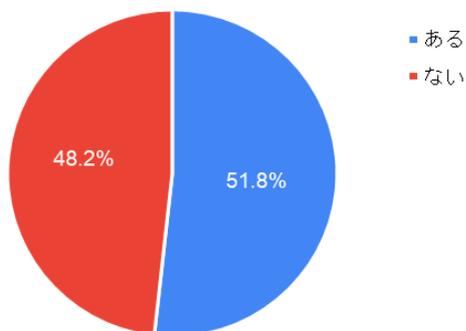
\*「マンションでは、個人のプライバシーを大事にするので難しいと思う」が「親や親族の介護経験がある人」では少なくなっている。経験からくるものが大きいと考えられる。

●この問いを年代別に見ると次のようになる。



## VIII 親、親族の介護（サポート）経験又は現在実施中の経験について

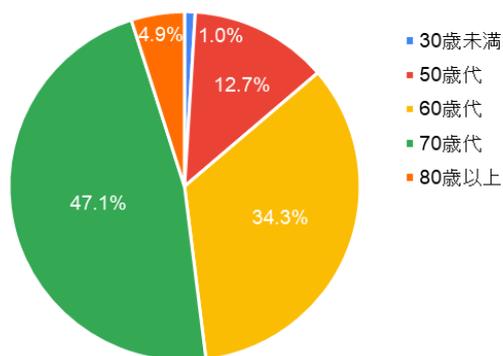
- 親、親族の介護（サポート）経験又は現在実施中の経験はありますか。（n=199）



下記1.～5.の問いは、親、親族の介護（サポート）経験「あり」と答えた方に伺います。

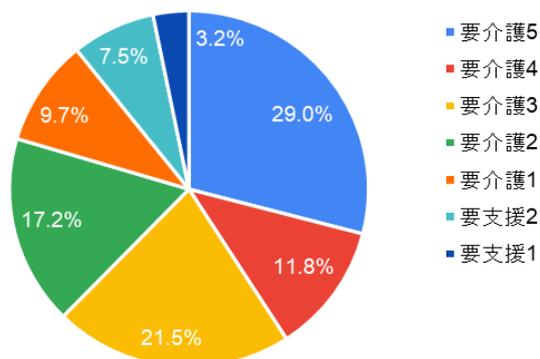
1. ご自身の年齢を教えてください。

	件数	%
30歳未満	1	1%
50歳代	13	13%
60歳代	35	34%
70歳代	48	47%
80歳以上	5	5%
総計	102	100%



2. 被介護者の要介護認定調査の結果はどうでしたか(直近のもの)。(n=93)

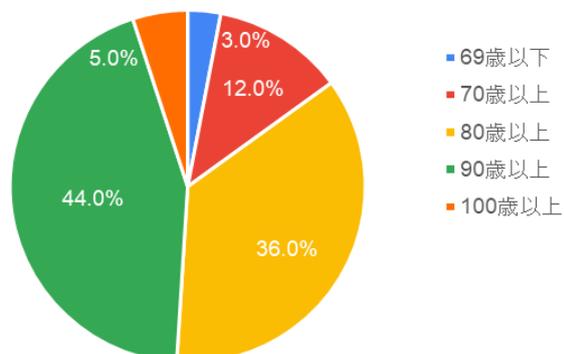
要介護認定	件数	%
要介護5	27	29%
要介護4	11	12%
要介護3	20	22%
要介護2	16	17%
要介護1	9	10%
要支援2	7	8%
要支援1	3	3%



総計 93 100%

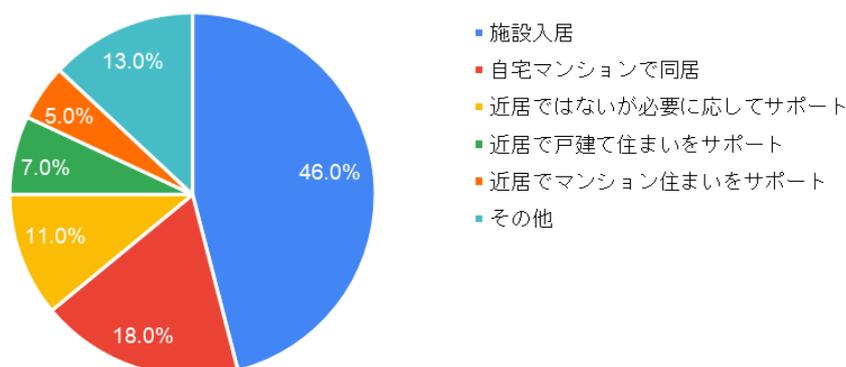
3. 被介護者の年齢（亡くなった年齢、お元気な方は現在の年齢）をお聞かせください。（n=100）

被介護者の年齢	件数	%
100歳以上	5	5%
90歳以上	44	44%
80歳以上	36	36%
70歳以上	12	12%
69歳以下	3	3%
計	100	100%



**\*90歳以上が49%を占めている。**

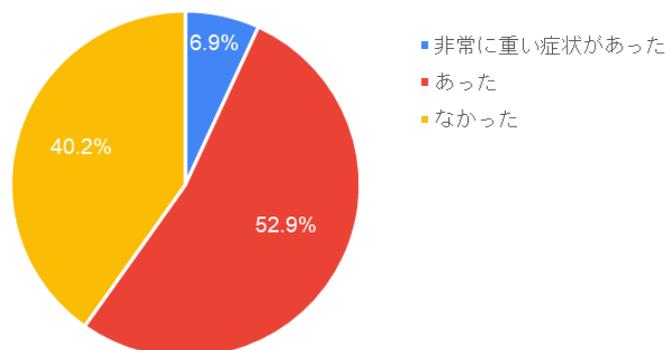
4. 介護の状況をお聞かせください（直近のもの）。（n=100）



#### （その他の回答）

- ・ コロナ禍でリハビリ病院から転院できず、適切な治療が受けられぬまま死去。
- ・ 遠居で戸建て住まい。
- ・ 遠距離で戸建住まいをサポート。
- ・ 割合はやく入院した。
- ・ 近居でサポート&晩年は彼女のマンションに住込み。
- ・ 入院。
- ・ 父母とも急に悪くなり入院し逝去。戸建てで別居。
- ・ 片道2時間のUR 高齢者用に毎日訪問サポート。

5. 被介護者に認知症の病状はありましたか。(n=102)



\*59.8%の被介護者に認知症の症状があった。

6. 親、親族等の介護（サポート）体験で感じたことを自由にお書きください。

#### （自由記載意見）

##### ●負担が大きいと感じる意見

- ・時間的負担が大きい。
- ・非常に大変だった。
- ・身体的に元気だが認知症症状が重く、つきっきりで抑制しなければならず非常に負担が多かった。
- ・心身ともに、非常に疲れる。自分が世話になったと心底思える親でないといけないことだ。
- ・時間的なひっ迫が顕著であった。
- ・茶器など大事なものが盗まれたと、行きわたった家族のすべてを盗人扱い、毎日の同様の行為に疲れ切ってしまいました。
- ・介護でストレスを感じていないと思っていたが、いつの間にかストレス性の動悸などの異変が起きてしまった。
- ・「年を取って性格が丸くなる」人は希で、逆に易怒性が高まり、周囲との軋轢を生み迷惑を掛ける場合が圧倒的に多い。
- ・頭は最後まで正常だったが、脊椎の神経を冒され、足腰立たないようになり、施設に入る前に実家で一人で介護した時、昼夜を問わない『ベッド⇄車椅子⇄便座』と朝夕の食事の世話に加え、自らの食事と睡眠で、体力に自信のあった私も、2週間後には体調を崩した。施設の有難みを実感した。子供たちには、こんな苦労は、できることならかけたくないものだ。
- ・認知症の介護は本当に大変なことが分かった。
- ・精神的に辛いし、ストレスが溜まる。長期間は難しい。
- ・大変な負担を掛けてしまうので、安楽死が認められるよう望む。
- ・老々介護は大変である。

- ・夫婦で短い期間であったが大変苦勞した。
- ・なかなか言うことを聞かないので苦勞する。「老いては子に従え」を実践してほしい。
- ・夜中に何度も起きてトイレに行くので良く眠れないことが多かった。

### ●介護体験をプラスにとらえる意見

- ・妻、兄妹で協力して介護をすることによって、家族の絆が深まった。
- ・貴重な経験だった。自宅介護を経験して、家族間の結束が高まった。
- ・楽しかった。
- ・最期まで在宅介護で見とれてよかったと思う、就職のことで悩ませたから。
- ・普段から親、子、親族と話し合っていることが安心につながる。
- ・相手(夫)をリスペクトすることを忘れずに。でも、傷つけても言いたいことは我慢せずに伝えている。できないと言っていたが、時間をかけて見守りつつ、励ましていたら自力でもできるようになった。
- ・不便なことがかえってリハビリにもなる。なるべく自力で克服することを願い、どうしてもできないときは手を貸す。忍耐と時間をかけることも大切と思う。
- ・やはり家族になるけど 適度な介護サービスが重要。
- ・健康管理・人つきあい・学習意欲しだいで、要介護状態を軽減できるとおもった。
- ・いずれ自分もそうなることを想定し、少しずつ準備をしておこうと思った。
- ・夫婦で介護できたからやり遂げられた。
- ・無理をせずできることをできるだけすること。
- ・バリアフリーに近い造りだったので車椅子での介護ができた。介護ベッドも入れて最後まで自宅で面倒が見られた。戸建の家よりマンションで良かったと思う。
- ・問題なくできる。
- ・自ら備えておくことが周囲をラクにする。まだ 早いと思うくらいから準備しないと、発症してからでは遅い

### ●マンションに望むことに関する意見

- ・自分の家を留守にするときは、マンションは防犯上安心であること、親と同居するスペースがないのは不便であること、独居の場合はマンションの方が良いのではないかと思った。
- ・母は、病気での入院から始まり、入院中にベッドから落ちて大腿部を骨折し、その後一気に体力を失って、車いす生活を経て亡くなった。そうならないためにも、普段から動ける体であることを心掛ける必要があると感じている。また、認知症のように周囲が配慮すべき人が増えていると聞く。まだ当組合内には該当者は見当たらないが、いずれ対応が必要となる可能性もあるため、バリアフリーだけでなく、認知症対応も組合及び理事会の重要議題として、継続的に取り上げて行きたい。
- ・マンション内で親しくしている人が何人かいるので困っているときには助けてと言える。廊下、階段に手すりのないマンションなので、ヨロヨロと歩くときには手すりが欲しいと思った。当時の理事長に相談したところ、とつても急を要していたので理事長判断でOKだったものの、工事までに間に合わず亡くなってしまった。
- ・よほど信頼出来る相手が無ければ、自宅への出入りなど含め独居の老親の手助けはお願いできない

が、マンション全体に高齢者に対する温かい目があると何かあった時の安心感が全然違うと思う。

- ・介護が必要な高齢者にとって、いつも周りに人がいる環境のマンション住まいは、メリットが大きいと思う。周囲の人にとっては迷惑かも知れないので、何かあった時の対応（最低限）をマンション内で議論し、ある程度の合意形成をすることも必要かも知れない。マンション全体が高齢化する中で、互いに疑問や意見を言い易い環境を作ることが重要と考える。
- ・災害などあったら、親を連れて避難できないので、マンション住民が助け合えたらと思った。
- ・マンションで住民同士が助け合い施設に入居することなく過ごせる環境が生まれればと思っている。

## ●行政、介護業者との関係に関する意見

- ・1人だけではできない、行政や介護業者、地域の協力が必要。
- ・手間暇だけでなく、お金もかかる。特養に入れてホッとした。
- ・時間、費用等の負担が大きく、家族含め多くの人の協力が必要。
- ・仕事として介護の業務についていたが、身内を介護するのはまた別の問題。やはり第三者が入らないと続かない。
- ・夜間の介護が大変でした。私一人でしたので。仕事に支障が出始めたと感じてから程なく施設に入居させることが出来たのは幸運だったと思います。
- ・一人でやるのではなく、任せられることは任せるのが良い。
- ・個人あるいは家族で抱え込まずに、できる限り公的支援を受けるべく積極的に活動する。
- ・ひとり暮らしでがんばっていたが、認知に不安を感じて老人ホームに入居した。それまでは、主として妹が介護にあたっていたが、負担が大きかったので入居させて良かったと思う。
- ・全て病院で面倒見て貰った。
- ・母は老健施設を嫌がらなかったし、その分施設も大変頑張ってくれた。良い思い出しかない。
- ・家族内で抱え込まない…家族内での助け合い+必要な支援を受ける。
- ・家族だけではぜったいに無理。
- ・必要に応じて、家族のサポートとさまざまな社会的資源を活用することが大事だと思った。
- ・近い施設が良い。
- ・介護は、身内で抱え込むことはせずに、専門職の手を借りて、客観的に本人の状態を判断し、複数人で行うことが必要だと思います。
- ・自分の生活があり、満足に介護は出来ない。親の扶養義務は民法上あるが実際は難しい。
- ・身内で抱え込みすぎるのは禁物。
- ・認知症の有無で負担感は相当変わる。やってみなければ分からない。できるだけやって駄目な場合はケアサービスを入れる。先が見えない不安感、自由時間の喪失、精神的負担。身体状況により、負担も様々。なるようにしかならない。
- ・介護のプロにお任せするのが一番だと思った。特に認知症の場合、介護者が家族であろうが他人であろうが、被介護者本人からみて何ら変わるところがない。
- ・老老介護は完全に無理！！介護者が難病の事もありますから。

### ●介護サービスに対して思うことに関する意見

- ・介護者が高齢で自宅での介護ができない場合、施設にお願いすることになりますが、年金だけの収入では入居費用が負担できません。ぎりぎりの生活になります。介護費用を負担する人に対して何らかの救済措置が必要と思います。
- ・情けなく辛かった。介護サービスはお金次第だと感じました。
- ・4名の被介護者(内3名は死去)の介護を経験しています。共通して一番に思い浮かぶことは、医療関係者と介護関係者が、互いの現場の現実を知らないため、介護者と被介護者が、右往左往したり板挟みのようになっていたりすること。
- ・施設にお世話になりましたが、色々と難しい現実を知りました。
- ・当人の金銭的な考え方と介護者の考え方のすり合わせが難しかった。
- ・本人が負担を感じることをないように、施設の環境を良く調べる必要がある。

### ●現在の悩みに関する意見

- ・ひとり娘が知的障害(愛の手帳2度)で今後も支援が必要なため、自分たちのことや周りのことになかなか踏み込んだ対応ができていない。このもどかしさが悩みです。
- ・コロナ禍で面会等が限定されていて認知症の症状が進むことを危惧している。
- ・民間の有料老人ホームへの入所を検討した際、ケアマネージャーさんから、ある程度の情報はいただいたが、サービスの良し悪しを見極め、本人、家族の状況・要望に合った施設を見出すのはなかなか難しいと感じた。医療に近い業種・サービスであると思うのだが、民間事業者間での競争もあるようで、入所希望者へ向けたキャンペーン、特典など、ホームページに宣伝風に記載されていて、営業的な姿勢も強く感じた。
- ・現在、母は97歳、要介護4、有料老人ホームに入所中で、特別養護老人ホームの空き待ちだが、特養はデイサービスにあるようなお茶会、体操などの催し物や活動プログラムは少ないようで、ましてや、コロナで家族の面会もできない状況では、入所すると衰えが加速するのではないか、という懸念も感じている。

### ●後で後悔が残ったことに対する意見

- ・コロナ禍で、思う様な介護・後見が出来ていない。(施設内に入ることさえ制限される場合がある)
- ・介護は大変でしたが、亡くなったあとに感じたのは「果たして十分に介護できたのか」という後悔でした。
- ・時に相手に対して心無い言葉を使った。
- ・親族に本人宅訪問せめて電話での話を求めても、長くなるからと断られました。本人の支払確認から体調確認、希望の実現サポート、認知機能低下を補うための対応、夜中に迷子の引き取りを警察から求められるなどかなり金銭的・時間的・心身的負担は大きかったです。しかも対外的には子供ではないことがかなりハードルになりました。姪としてはかなりやっとなと客観的には判断出来ても、自分の気持ちとしては悔いがあります。
- ・両親ともに施設で暮らしてもらおう選択肢を選びましたが、父は施設で転倒骨折がもとで2週間の入院期間中に他界、母はコロナ禍の中で会うことも出来ない状況から衰弱し入院となり最後の2週間

ほどだけ短時間の面会でお別れとなりました。今思えば、仕事を変えてでも一緒に暮らす選択肢の道を探すべきであったのではないかと思います。

「以上」